



飯田市歴史研究所
11.12.01
飯田市
歴研ニュース



参加者の質問に答える研究員(2011年10月15日撮影)

10月15日・29日の2日にわたり、鼎歴史を学ぶ会との共催で、鼎公民館に保存されている新井家文書の保存整理作業を行いました。

新井家は江戸時代に山村下平(現鼎下山区近辺)の庄屋を務めた家で、村の歴史に関わる史料だけでなく、生糸集荷のお触れ書きや、千人講騒動の記録など、飯田・下伊那地域の歴史を知る貴重な史料もあります。

目録は平成6年に美術博物館から発行されていますが、写真撮影のうえ画像をデジタル化して、活用しやすくしたいという鼎歴史を学ぶ会の方たちの要望があり、撮影の前に保管のための再整理を行うことになりました。

今回は古文書を中性紙の封筒へ入れ直し、さらに古文書専用の保管箱へ納めていく作業を進めました。作業の中で、古文書の内容に興味を示したり、あらたな発見や疑問を持たれたりした方もみられました。今後他の地区でも共同で古文書の整理を進めることで、より身近にむかしの人たちの暮らしや生き様を感じていただけたらと思います。

鼎下山地区のみなさんと
新井家文書を整理しました

山村赤田新井家文書
保存作業に参加して

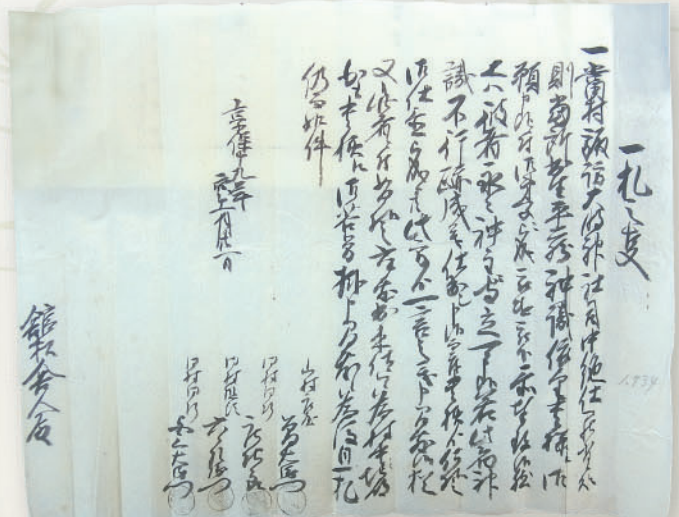
鼎歴史を学ぶ会 吉川 四郎

山村にとって、新井家文書は北沢家文書と双璧をなす貴重な庄屋文書であります。北沢家文書はすでに然るべきところに納まり、その保存・閲覧が整備されています。新井家文書は鼎公民館のロッカーの中に雑然と積み上げられていました。

本年度、飯田市歴史研究所の強力な指導とムトス飯田まちづくり応援事業の支援のもと、新井家文書の保存と閲覧・活用への道が開かれることになりました。去る10月15日、同29日、その第一段階の文書の整理が実施されました。この作業にあたり地区内へ広く参加を呼びかけたところ、延べ40名の参加をいただきました。作業は全文書(913点)一つ一つ確認し、整理番号・年代・題名等を記録した保存用封筒に入れ、文書箱に収納するものでした。参加者のほとんどが新井家文書は勿論、古文書にも初めて触れる方々で、しかも両日で6時間余に及ぶ作業でしたが、意欲的に取り組んでいただき予定の作業を終了しました。作業中「よくこんなに書けたもんだなあ」「解説できたなあ」「面白いものがあるなあ」等の声が聞かれました。今度の作業が順調に行われたのは、地域の先輩の方々の「新井家文書目録」があったからです。敬意をささげるものです。この事業の完遂を期したい。

鼎歴史を学ぶ会との共催で、新井家文書に関する地域史講座を行う予定です。

※詳しくは3面をご参照ください。

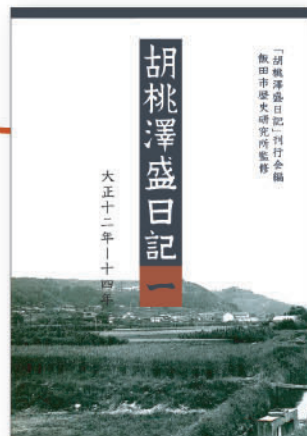


享保19年(1734)11月21日
諏訪大明神(矢高神社)の神職がいなかったため、山村生まれの平蔵を南条村(現上郷地区)の神主・館松舎人(たてまつとねり)へ弟子入りさせたいと申し出た村役人と神主の取り決め文書



くるみざわ もり 「胡桃澤盛日記」第1巻

「胡桃澤盛日記」刊行会編／飯田市歴史研究所監修



A5判・423頁・並製

全6巻セットの
予約販売です
(各巻3150円+送料)

戦時中、河野村(現豊丘村)の村長を勤め、戦後、満州移民送出の責任を取って自ら命を絶ったとされる胡桃澤盛(1905-1946)は、青年期から亡くなる直前まで日記を書きつづけていました。そこには大正デモクラシーの影響を受けた農村青年が、昭和恐慌期の苦しい時代を生き、やがて村政の指導者となって戦時体制を支えるにいたる姿が刻まれています。

第1巻は大正12年から14年まで、19歳から21歳の青春時代です。恋愛に悩み、労働に励み、家族の不幸を悲しみながら、一方で自由大学を受講し、青年会活動を行い、左傾運動にも接近していきます。

飯田・下伊那地域のみならず、日本の近現代史を考えるうえでの重要な一書になるでしょう。

関係者の皆様へ このたびは歴史研究所からの献本はございません。ご了承くださいませ。



2011年度 飯田歴研賞受賞

奨励賞「山の村に生きて」今井 積さん

この度の第9回地域史研究集会において、飯田歴研賞「奨励賞」を賜りましたこと誠にありがとうございました。

70余年前の高校時代3年間、村を離れ飯田市に在住したのみにて80余年は大鹿村の山の中で世の中がどのように進んでいるか知らず暮らしてきました。

ただその中で、村内外で発行されてきた公民館報その他の諸誌に寄稿してまいりましたものの中から、村に生きてきた標にと抜き出してまとめたものが『山の村に生きて』の小著でございます。

本の上梓の折、共に喜んでくれた主人も4月に逝去、今回の賞をいただきましたことを共に喜んでもらえないことが、今は残念でございます。



あなたの投稿を お待ちしております!

飯田市歴史研究所では、来年度の発行を予定している『飯田市歴史研究所年報』10号に向けて、飯田・下伊那の地域史を中心とした論文・研究ノートの投稿を募集しています。考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史・美術史・建築史など、歴史に関わることであればジャンルは問いません。また、専門的な内容でなくても結構です。地域の貴重な宝物であるみなさんの研究を、多くの人に発信してみませんか。

応募資格: なし
分量: 400字詰原稿用紙換算20~60枚程度
提出方法: 手書き原稿またはCD-R等のメディアを歴史研究所まで郵送するか、データをメールにてお送り下さい。

締め切り: 2012年1月末日
採否結果のお知らせまでに2ヶ月程度いただきます。

※なお、提出原稿は原則として返却いたしません。

詳しくは飯田市歴史研究所までお問合せ下さい

E-mail : iihhr@city.iida.nagano.jp



『飯田・上飯田の歴史(仮題)』刊行事業より

江戸時代の二つの大火

上巻
考古・近世

江戸時代の飯田町では、およそ50件の火事の発生がわかっています。そのうち天明3(1783)年2月晦日の池田町出火の火事と、

文政6(1823)年12月24日の箕瀬町床屋火事が二大火事と言えます。焼けた家の数が多く、焼失範囲が広いことが特徴です。この二つの火事は、関係した記録が残っているため、他の火事に比べ、その時の様子を想像することができます。

天明3年の火事では、出火元で全焼した池田町(現通り町2丁目)をはじめ、周辺の町の焼失の様子や、野原家に寄せられた見舞の詳細、野原家復興の作事に関わる調達や費用の実際がわかります。

文政6年の火事では、出火元から火の手がどのように伸びていったのか、焼失の状況・天候による広がりの変化などがわかります。また復興のための飯田藩や有力町人やいろいろな人々からの施米・施金・物品の差し入れの様子がわかります。また焼失した武家の家屋や調度品なども詳しく記されています。

ひとたび出火すると、被害も大きく、復興には大変な苦勞がありました。

【伊坪 達郎】



天明3年2月 火事の火元となった池田町の「家並図」

市民の声

「風土」の背景を探求

市民研究員(課程) 岸部 大輔



飯田の呼称の由来は「結いの田」(ゆいだ→いいだ)という説があり、「共同耕作の農地」の意から生まれたと考えられます。この地における農耕文化の歴史の深さや郷里の山川草木と共に生きてきた人々の共助・協働の精神が込められた地名と言えるかもしれません。自然に恵まれた気候と景観が育んだ生活文化や地域風習が

長い年月の中で独特の風土を支えてきたことと思われませんが、近代・現代における社会環境の変動と共に構造改革が進み、郷土の自然環境を守る事が難しい時代を迎えています。こうした現状にあつて、幸運にも飯田市歴史研究所の諸先生方より指導を受ける機会を得た自分に何ができるのかを踏まえ、この度「市民の声」への寄稿に際して飯田・下伊那の自然環境史と生活文化史の関連性を研究対象に選択したことを述べさせていただこうと考えました。

「歴史研究」という言葉からは少し離れた印象のジャンルでもありますが、日本人は古来より生命の根源を大地の恵みに見出してきた民族であり、多様な自然環境の中から利用可能な要素を選択してそれぞれの土地の生態系に対応してきた側面や、人間の生活や産業基盤が里山に及ぼしてきた影響などを歴史という切り口から捉えることは可能です。そこから地域の風土を保全するための糸口を見つけ出せるのであれば、人々が希望と誇りを持って暮らせる地域づくりのために歴史的事実を調査し、分析し、市民にフィードバックできる形にまとめる取り組みとして飯田市歴史研究所の活動に沿うものと判断いたしました。また、「衣・食・住」に大別できる生活文化の中でも当面は「食」の文化史にスポットを当て、豊かな自然を背景にした郷土の食文化と、この地の生活環境を支えてきた自然史との関連性考察を目標としております。

自らの住む土地の地域史を知るということは、人々が今までに通ってきた道を知るということでもあり、そこで得た知識を糧に新たな世の中を切り開くことにもつながるのではないのでしょうか。微力ながらこうした研究が皆さんの手でこの飯田に新しい風を吹かせていただく一助になればと願いつつ、日々の活動に励みたいと思っております。

地域史講座

2012年1月14日(土)

新井家文書から見る 村の歴史

鼎下山区周辺の歴史を調べるうえで基本となる新井家文書。この史料の内容をひも解きながら、江戸時代の山村について考えます。

講師:竹ノ内 雅人(研究員)

時間:14:00~16:00

場所:鼎公民館 講義室

定例研究会

2011年12月10日(土)

近世下伊那の村落と神職の組織化

報告者:竹ノ内 雅人(研究員)

時間:14:00~16:00

場所:歴史研究所 研修室

2012年1月21日(土)

明治前期の飯田と士族

報告者:池田 勇太(研究員)

時間:14:00~16:00

場所:歴史研究所 研修室

2012年2月4日(土)

大型店進出と「丘の上」

報告者:本島 和人(調査研究員)

時間:14:00~16:00

場所:歴史研究所 研修室

大正・昭和初期の入浴回数

下巻
近代・現代

かつての飯田町には、町民の日常生活に欠かせない施設として親しまれ「お湯屋」「お風呂屋」「お銭湯」と呼ばれていた共同浴場が何軒もありました。「飯田警察署管内

浴場組合」の資料によると、1928(昭和3)年には飯田町に18軒、上飯田村に2軒の「浴場」がありました。

その頃飯田町に住んでいた人々の入浴回数はどのくらいだったのでしょうか。同組合が1926(大正15)年に出した文書の中に、「(入浴は)二夜オキ」という文言があります。浴場経営者は、銭湯利用回数を平均して3日に1回と見ていたのです。

同じ頃主税町で子ども時代をすごした方の記憶では、「湯銭は大人3銭か5銭くらいで、家内中で行けばおおごとだもんで毎日なんて行かなんだ。夏になると家の裏の井戸のところでたらいで行水しとった」そうです。

また、屋敷内に風呂場があった商家で育った方も、「突き井戸からバケツで水を汲んで運びました。(風呂を沸かすのは)なにしろ大仕事だったと思います。昔はお風呂たつてそんな、えらい毎日入りゃあせなんだです。週に1~2回くらいだったかなあ」と思い出を語っています。



銭湯の面影(江戸町 旧玉の湯)

【伊坪 俊雄】

近世史ゼミ 担当 竹ノ内研究員 ■開催日 12月6日/12月20日 1月17日 (2月7日予定) ■時 間 19:00~20:40 ■場 所 歴史研究所研修室	思想史ゼミ 担当 池田研究員 ■開催日 12月7日 1月18日 (2月8日予定) ■時 間 19:00~20:40 ■場 所 歴史研究所研修室	近現代史ゼミ 担当 田中調査研究員 ■開催日 12月10日 1月14日/1月21日 (2月11日予定) ■時 間 17:00~18:40 ■場 所 歴史研究所研修室
満州移民研究ゼミ 担当 本島調査研究員 ■開催日 12月10日/1月14日/(2月4日予定) ■時 間 10:00~11:40 ■場 所 上郷公民館103号室	建築史ワークショップ 担当 金澤客員研究員 ■開催日 12月13日/1月10日/(2月14日予定) ■時 間 19:00~20:40 ■場 所 歴史研究所研修室	

歴史日誌

10月

- 1日… 歴史ニュース54号発行
- 1日… 満州移民研究ゼミ「宮下功『満洲紀行』を読む⑤」
- 1日… 満蒙開拓青少年義勇軍シンポジウム(参加 本島調査研究員・向山)
- 1日… 埴原牧の調査(北村研究員)
- 4日… 近世史ゼミ「榎下職の押し込み一件」
- 5日… 思想史ゼミ「高橋和巳『直接行動の季節』」
- 5日… 年報9号 発行
- 8日… 定例研究会「戦前期・飯田町における人の移動
—飯田町役場文書入慰留届の分析—」(田中調査研究員)
- 8日… 近現代史ゼミ「胡桃澤盛日記と南信新聞(大正13年)」
- 11日… 建築史ワークショップ
- 15-17日 第14次旧南信濃役場文書調査
- 15日… 八幡久保田写真館よりガラス写真乾板搬入
- 15日… シンポジウム「古代シナノ地域史の再構築」(参加 北村研究員)
- 15日… 鼎歴史を学ぶ会 新井家文書整理(竹ノ内研究員)
- 15日… 上郷下黒田北地区老人クラブふれあい会(伊坪調査研究員)
- 18日… 近世史ゼミ「蘭仲買と糸取—島田村の事例から—」
- 19日… 思想史ゼミ「高橋和巳『現代の青春』」
- 19日… 松高短大 出前講座「東日本大震災6か月後の被災地と人口移動」
(本島調査研究員)
- 20日… 川路今村秀平氏所蔵文書調査及び聞き取り
(本島調査研究員・齊藤客員研究員・向山)
- 22日… 近現代史ゼミ「文献講読 今井清『日本の百年⑥震災にゆらぐ』」
- 22-30日 筑波大学大学院人文地理学研究室 院生の野外調査受け入れ
- 26-28日 職場体験学習受け入れ(竜峡中学校2年生)
- 29日… 定例研究会「部落有財産不統一町村の展開と帰結
—近現代の飯田・下伊那を事例に—」(坂口客員研究員)
- 29日… 鼎歴史を学ぶ会 新井家文書整理(竹ノ内研究員)
- 30日… 『飯田・上飯田の歴史(仮)』下巻研究会
- 31日… 胡桃澤盛日記① 発行

11月

- 1日… 職場体験学習受け入れ(松川高校1年生)
- 1日… 近世史ゼミ「寅御成筒可納割附之事」
- 2日… 思想史ゼミ「高橋和巳『闘いの中の私』・
小林俊樹『その底流と今日的課題』」
- 5日… 満州移民研究ゼミ「宮下功『満洲紀行』を読む⑥」
- 5日… 羽場地区文化祭「上飯田村地引絵図展示」(竹ノ内研究員)
- 5-6日 史学会大会出席・報告(竹ノ内研究員)
- 7-8日 外国人集住都市会議いいた2011(参加 本島調査研究員)
- 8日… 建築史ワークショップ
- 11日… 文献史料保存活用講習会 県立歴史館
(北村研究員・伊坪調査研究員)
- 11日… 文献史料保存活用連絡協議会理事会 県立歴史館(北原副所長)
- 12日… 近現代史ゼミ「胡桃澤盛日記と南信新聞(大正13年)」
- 12-13日 飯田アカデミア第64講座「信濃と東国をめぐる古代史」
佐藤 信さん(東京大学大学院教授)〔上郷考古博物館〕
- 15日… 『飯田・上飯田の歴史(仮)』編集会議
- 16日… 第3期中期計画ワーキンググループ
- 16日… 思想史ゼミ「津田左右吉『建国の事情と万世一系の思想』」
- 16-18日 追手町小学校調査(多和田真理子調査研究員)
- 16-25日 合同庁舎ロビーパネル展示「歴史研究所の活動紹介」「戦後復興
から高度成長へ—飯田駅をめぐる写真と証言から—」
- 26日… 地域史講座 飯田・上飯田の歴史シリーズ9
「天明の飢饉から天保の飢饉へ—お救いと備え—」
伊坪調査研究員〔丸山公民館〕
- 26日… 近現代史ゼミ「胡桃澤盛日記と南信新聞(大正13年)」

■継続調査

三穂上松家所蔵文書、上條信彦氏所蔵文書、大平大藏家文書、松尾松田初美氏史料、高田茂氏所蔵文書、松澤卓治氏所蔵文書、北原嘉雄氏史料、小林八十吉氏文書、下條村鎮西徹氏所蔵文書、佐々木孝氏所蔵史料、千代嶋岡和治氏所蔵文書、八幡犬塚家文書、八幡久保田写真館写真、川路今村秀平氏所蔵文書、桜井章代氏所蔵文書 ほか

催事スケジュール

日	月	火	水	木	金	土	
2011年12月				12/1	NL55発行	2	3
4	5	6 近世	7 思想	8	9	10 定例研究会 近現/満州	
11	12	13 建築	14	15	16	17	
18	19	20 近世	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

2012年1月

12/1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 建築	11	12	13	14 地域史講座 近現/満州
15	16	17 近世	18 思想	19	20	21 定例研究会 近現
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 近世 近世史ゼミ
- 思想 思想史ゼミ
- 近現 近現代史ゼミ
- 満州 満州移民研究ゼミ
- 建築 建築史ワークショップ

開所時間:午前9時~午後5時

休 所 日:日曜日、月曜日、祝日、12月29日~1月3日

- 開所日
- 休所日